（様式第12号）

●●市/●●町（～～地域）ニホンザル捕獲計画

|  |  |
| --- | --- |
| 計画策定年度 | 令和　年度 |
| 許可申請番号 | 令和　年　月　日付●●第●号 |
| 許可申請主体 | ●●市/●●町 |

１．大規模捕獲対象となる群れ情報

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 群れの名称 | 群れ区分（最新） | 加害レベル |
| ●●●●A | □ 排除群□ 調整群 |  |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 群れの頭数・性年齢構成 |  | オトナ | ワカモノ | コドモ | アカンボウ | 不明 |
| 合計　●●頭（R●.●.●時点） | オス |  |  |  |  |  |
| メス |  |  |  |  |  |
| 不明 |  |  |  |  |  |
| 行動圏内部の利用状況（行動圏の図を添付、周辺群の分布についても可能な限り添付） |
|  |

２．当該群れの捕獲目標

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 捕獲オプション | 捕獲目標頭数 | 捕獲の実施者 | 捕獲期間 |
| □ 選択捕獲□ 部分捕獲□ 群れ捕獲 | ●頭（●％） | ●●市（委託者：●●） | 令和　年　月　日～令和　年　月　日（　か年） |

３．捕獲の手法等

|  |  |
| --- | --- |
| 捕獲の方法 | □銃器 □小型檻 □大型檻（地獄檻） □くくりわな |
| 捕獲目標頭数達成に向けた配慮 | （例）・捕獲の実施場所は、事前調査からサルの利用が多い場所を選定。・エサとなるものが少なくなる冬（12月～３月）に捕獲実施予定。・檻設置後、２～３か月程度檻に慣れさせた後、閉扉し捕獲を試みる。・警戒心の上昇を防ぐため、なるべく少ない回数で捕獲目標を達成する。・頻繁に餌付けを実施し、センサーカメラにて随時状況を確認する。・ICT機器を使用し、効率的な捕獲を実施する。 |
| 捕獲対象群以外の錯誤捕獲防止策 | （例）・捕獲対象群以外の群れと行動圏が重ならない場所で捕獲を実施する。・捕獲時に付近を周回し、捕獲対象群の電波発信器の所在を確認する。 |
| 捕獲個体の判別と残存数の確認 | （例）・サルの生態を熟知した従事者により、捕獲個体の性別・年齢を判別する。・随時、捕獲許可内の残存数を確認し、過捕獲を防止する。 |
| 捕獲個体処理方法 | （例）・銃器による安楽殺後、埋設。・薬殺による安楽殺後、処理施設にて焼却。 |

４．その他の被害防除及びモニタリングに係る項目

|  |  |
| --- | --- |
| 捕獲中及び捕獲後の被害防除策 | （例）・ニホンザル対策地域実施計画に従い、研修会及び防除柵の設置を推進する。 |
| 捕獲中及び捕獲後のモニタリング体制 | （例）・捕獲中に捕獲対象群の行動圏に変化がないか、分裂がないか、捕獲後の残存個体について、設置する発信器や住民・鳥獣保護員・狩猟者・農林業従事者からの情報をもとに注視する。・ニホンザル対策地域実施計画に従い、捕獲の効果検証を実施する。・当該群れ捕獲後の周辺群の行動圏の変化、新規群の出現について注視する。 |